

七月一日〜七月五日 第十二箇度富士登拝修行記

法務課 岡野 忠良

燦々と照り付ける太陽、アスファルトからの照り返し、見当たらない日陰、まったく吹かない風、滝のように流れ出る汗。そんな地獄のような暑さの中、富士山頂を目指して、私たちは一歩一歩前へ歩みを進めていました。

平成三十年七月一日から五日にかけて、高尾山の恒例行事であります。第十二箇度霊峰富士登拝修行が行われました。私は高尾山薬王院に勤めさせて頂いてから今年で三年目、この行事に参加するのは今回が初めてでした。私が歩いたのは全行程の前半部分に当たる、高尾山頂から富士吉田市の大國屋まで。総距離にして、約七十kmです。初日の七月一日、この日は高尾山の琵琶瀧水行

道場にて心身を清め、柴燈護摩供に出仕し、高尾山麓から薬王院まで登拝修行を行いました。この日は比較的歩きやすい気候で、流れ出る汗も気持ちのいいものでした。しかし、この時の私は翌日の猛暑の中で、修行をする事になるとは知る由もありませんでした。

今回の修行に参加する成田山東京別院深川不動堂様から二名の方と、多氣山不動尊持宝院様から一名の方も合流し、夕食を囲みながら各々自己紹介をして一日目を終えました。

勤めに参列し、高尾山浅間社にて出立式を行った後、私を含め計八名で徒歩修行をスタートしました。

まず高尾山頂にてお勤め。その際、富士山が雲一つなく美しく見え、まるでこれからの修行を無事に成満出来るよう、富士山が応援しているかのように見えました。この時は早朝という事もあり、前日と同じように歩きやすい穏やかな気候でした。そして午前八時頃、善勝寺様に到着し、会館にて朝食。早朝から何も食べず、約三時間歩いた事でお腹は空腹状態。この時の梅おにぎりは非常に美味しく感じました。その後、善勝寺様のご住職に挨拶を済ませ、再度歩き続けます。この時から日差しが強くなり始め、気温も段々と暑くなってきました。

ここから一般道の歩道や住宅街の道を歩き続け、体全体に浴びる日差しと暑さは徐々に体力を奪っていきます。



田原神社で休息する筆者
芭蕉像の服装を見て往時に思いを馳せる

ていきます。休憩の際、事務局の方に用意して頂いた水や冷えたお水は、道中の暑さで疲れた体を癒してくれる有り難いものでした。さらには、道中はもちろん無言で歩き続けますが、休憩の際の参加者同士での談笑は、心を癒してくれる最高のものでした。

休憩を取りながら歩みを進め、私たちは山梨県上野原市まで歩いて行きました。昼過ぎには、最高気温に達し、体から流れ出る汗の量も一層多くなります。なにせこの日は、都心でも最高気温三十度以上を記録しており、市内を歩いている最中には、私たち以外に外を歩いている方を見かけませんでした。さらには、早朝から歩き続けている為、足の裏に段々と痛みを感じ始め、足取りも重く感じるようになってきました。

きな安堵感があった事を今でも覚えています。三日目、この日は中央館から富士吉田市にある大國屋まで歩きました。私にとつては、富士登拝修行の最終日です。

六時に出発した際には、前日に比べ気温も落ち着き、雲がある事で日陰も作られ、なによりも前日には無かった風が吹き、非常に歩きやすい気候でした。足の痛みは多少ありましたが、最後の目的地に向けて歩みを進めました。

拜修行」と書かれてある旗を持ち、大國屋へと続く最後の長い上り坂を歩き出しました。

十七時四十五分に宿泊場所の大國屋に到着した際には緊張感や疲労感が消え、心には大きな達成感がありました。しかし、私自身の富士登拝修行はここで終わり、一足先に高尾山に戻らなければなりません。他の参加者の方々はこれから富士山を登拝する正念場になるといふのに、私は一緒に行くことが出来ないという、寂しさと悔しさも心の内に芽生えるのを感じました。

この三日間を通して私が一番感じたものは、水や食べ物、普段の生活で当たり前だと思つて口に入れていたものへの感謝の気持ちでした。修行をしている最中、いかに冷たい水が有り難いと感じたか、歩いて空腹になつた時に食べるお米がどれだけ美味しかったことか、普段の生活では感じられ

ない部分を感じる事が出来ませんでした。そして共に修行を歩む仲間がいるという事への感謝の気持ちです。もし私が一人でこの徒歩修行をしていたら、きっと途中で投げ出していただしよう。しかし、仲間と談笑し、励まし合う事で乗り切る事が出来ました。

ながら終えた私の富士登拝修行、しかし歩き終えたことで修行が終わった訳ではありません。ここからが本当の修行です。この登拝修行で感じた事を、たくさんの人々に伝える事が修行となつていきます。私はそれを念頭に日々精進していこうと思ひます。



三日間を過ごした仲間に後事を託し、大國屋前にて別れる

富士登拝代参守のご案内
この代参守は、高尾山から続く祈りの道を、修験者によって運ばれ、霊峰富士山頂にて法楽し、本年一年の、諸縁吉祥・諸願円満の為に、ご祈念致します。

授与料 一休壹千円以上
(代参守と碑伝合わせて)
〈申し込み方法〉
山上・御護摩受付所又は、葉書に郵便番号・住所・氏名(必ずフリガナを明記下さい)。電話番号を明記の上、左記までお申し込み下さい。
※締め切は、七月末日とし、八月以降の申し込みは、来年度分とさせていただきます
〒一九三一八六八六
八王子市高尾町二二七七
大本山高尾山薬王院内
富士事務局
富士山
御守
代参守
碑伝